

だれもが充実したいのちを燃やして生きることができるように!

わたしたちは、予防医学を通じて人々の「生涯健康」「健康寿命の延伸」をめざし、健康と福祉の向上に努めることにより、社会に貢献してまいります。

よぼう医学

THE NEWS OF HEALTH SERVICE

2018(平成30)年3月15日 第528号

(公財)東京都予防医学協会
予防医学事業中央会東京都支部

編集・発行人 小野良樹

発行所 〒162-8402
東京都新宿区市谷砂土原町1-2
保健会館 電話 03-3269-1131

http://www.yobouigaku-tokyo.or.jp

毎月15日発行



今月の主な紙面

- (1面) ● 第253回学校保健セミナー
今、学校で始まる「がん教育」!
● 広報紙「よぼう医学」が生まれ変わります
- (2・3面(見開き))
● 第252回学校保健セミナー
事例から学ぶ学校での集団感染の予防と対策
● 東京都予防医学協会年報2018年版 第47号
(平成28年度活動報告)が間もなく完成します
● 連載 産業医訪問(109)
- (4面) ● 第277回ヘルスケア研修会
健康経営と女性の健康
● 「東京都先天性代謝異常等検査連絡協議会」
第2回 設立準備委員会が開催
● 連載 ALCAだより(21)

第253回 学校保健セミナー

今、学校で始まる「がん教育」!

子どもたちに知識や経験を伝える 国民の健康意識の向上につなげる

日本人の死亡原因として最も多いがん。国は、がんそのものの理解やがん患者に対する正しい認識を深めるには、子どもの頃からの教育が重要であるとして、学校での「がん教育」実施に向けたさまざまな取り組みを行っている。こうした中、1月23日に都内のホテルで開催された第253回学校保健セミナー(主催・東京都学校保健会、本会)では、「今、学校で始まる『がん教育』」をテーマに、東京都がん教育推進協議会の委員で、これまで多くの小・中学校、高等学校でがん教育の授業を行ってきた東京女子医科大学がんセンター長の林和彦氏(写真)が講演した。

「がん教育」こそが 対策の推進力

冒頭、林和彦氏は、がん専門医である自らが「がん教育」に取り組むことになった経緯に触れ、「患者をはじめ、多くの国民ががんについてあまりにも情報不足であると感じ、15年ほど前からがんの啓発に重点を置いて活動してきた。その過程で国の取り組みとも連携することになった」として、次のように述べた。



「2012年に策定されたがん対策推進基本計画で、がん教育の実施に向けた取り組みが目標として掲げられたことを受けて、文部科学省は14年、がんの教育総合支援事業を立ち上げ、有識者による『がん教育』のあり方に関する検討会を設置すると共に、

モデル校等で多様な取り組みを実施してきている」
林氏は、がん教育を行うに当たり、学校の仕組みや教職員の現状を理解するため、病院勤務の傍ら、特別支援学校、中学校、高等学校の教員免許を取得している。

講演では、自身がモデル校などで行っている授業風景を映し、「授業の前に必ず学校を訪問し、3つの質問(①あなたが「がん」について知っていること、感じている印象を教えてください②がん患者さんは、どんなつらさや苦し

学校と外部講師が チームとなって進める

みがあると思いませんか?③もし、大切な人が「がん」になったら、あなたには何ができるでしょうか?)に答えてもらい、生徒や地域の特性を読み取り、現場の先生と共に授業プログラムを作る上での参考にしている」と解説した。

続けて林氏は、国が進めている学校でのがん教育について、「その目的は2つ。一つはがんについて正しく理解できるようにすること。もう一つは、健康と命の大切さについて主体的に考えられるようにすることだ。前者は知識の教育で、後者は意識の教育だと考えている」と述べ、「知識の教育だけでは、医師や

「がん」になるって どんなこと?



林和彦(著)
東京女子医科大学がんセンター長
セブン&アイ出版
1400円(税別)

「がん教育」の醍醐味は、子どもたちの変容ぶりにあります。わずか45分の授業でも、子どもたちは大人顔負けの意見を持つようになります。私は、がん教育の授業を通して、自分のいのちを大切にすることを学んだ子どもたちは、いずれは他人のいのちを思いやり、国の将来をも考えられる大人になってくれると信じています。(「おわりに」より)

広報紙「よぼう医学」が 生まれ変わります

新年度から

本会は昨年3月に創立50周年を迎えました。公益財団法人としての役割を再確認しつつ、今まで以上に質の高い検査と健診、心を込めたサービスで皆様の健康づくりのお手伝いを続けてまいります。また、新たな50年に向けた取り組みの一環として、この度、広報紙「よぼう医学」を

全面リニューアルすることにいたしました。

「よぼう医学」は、1969年の創刊以来、タブロイド判で発行してまいりましたが、従来のスタイルは本号(第528号)までとし、2018年度よりデザインを一新、冊子形態でお届けします。

「よぼう医学」編集・発行人
本会理事長 小野良樹

季刊(3カ月ごと)に変更します。
広報紙「よぼう医学」のリニューアル創刊号は7月に発行予定です。
今後、東京都認可の公益財団法人として、読者の皆様に喜んでいただける誌面作りを一層の努力をいたしますので、引き続きご指導・ご協力をお願い申し上げます。

個人情報の取扱いについて

日頃より、東京都予防医学協会の機関紙「よぼう医学」をご愛読くださりありがとうございます。本会では、「よぼう医学」を送付させていただいている皆様について、送付に必要な情報(氏名、住所、所属、役職など)を送付名簿として保持しております。これらの個人情報の収集、保存、利用につきましては、本会の個人情報保護方針に基づき、厳重な管理の下に運用しております。送付名簿からの削除や変更を希望される場合には、お手数ですが、右記広報室までご連絡ください。

健康管理相談をお引き受けします

当センターの会員が事業所、学校、各種団体の健康管理をアドバイスいたします。

お問い合わせ・
ご相談は事務局まで
(予約制・無料)

健康管理コンサルタントセンター
事務局 東京都新宿区市谷砂土原町1-2
(公財)東京都予防医学協会
電話 03-3269-1141

送付先の変更・送付中止について

送付先の変更・送付中止を希望される場合には、本会広報室までお知らせください。



Eメール
koho@yobouigaku-tokyo.jp
FAX 03-3269-7562
電話 03-3269-1131
でも承っております。

第252回 学校保健セミナー

事例から学ぶ 学校での集団感染の 予防と対策

堀成美氏はまず、感染症は、対策
ないか」と当事者や家族はす
をしなければ広がってしま
う。「予防対策をしてもも
広がることもある。しかし取
り返しのつかない事態が起き
れば減らすことができる」と

わかってはいるものに関して
は、減らす努力をするところ
求められる」と説いた。
その上で、感染症の特徴を
次のように解説した。
病原体に暴露した人すべて
が感染するわけではなく、逃
れる人もいる。その要因は、
ウイルスの量の多寡、個人の
免疫・体力の違い、環境条件
などさまざまだ。

一方、感染しても無症状や
軽微な症状で終わる人もい
る。例えばインフルエンザの場
合、軽症の人の割合が約程
度である。この軽症の人たち
は感染に気づかず普通に活
動しているが、ウイルスは排
出しているため、その人たちが
感染源となって周囲に感染が
広がっていく。

去る12月14日、本格的な冬の感染症シーズンを目前
に、第252回学校保健セミナー(主催・東京都学校
保健会、本会)が東京・新宿区で開催された。セミナー
では、感染症対策のエキスパートである国立国際医
療研究センター感染症対策専門課の堀成美氏を講師に
迎え、「事例から学ぶ学校での集団感染の予防と対策」
のテーマで、実践的な講演が行われた。

「こうした感染症の特徴を踏
まえ、学校現場の皆さんにご
協力いただきたいのは、早め
の対策である(図)」と堀氏
は述べ、「中でも一番大事な
ことは保健所への相談」と
説いた。

では、保健所にはどのよう
に相談すればよいのか。
まずは問題が大きくなる前
に保健所の感染症対策課に、

「2人も3人同時に胃腸炎
症状で欠席しています。普段
はないことなので、連絡しま
した。明日また広がるようなら
相談させていただきます」とい
った報告を入れる。
そしてその際、「何月何日
に、誰に、どういった連絡をし
た」という記録を残しておく

表1 感染症の予防対策

1次予防：ワクチン 知識
①ワクチンで予防できる病気はワクチンで予防する VPD(Vaccine Preventable Diseases) ②具体的に何をすべきか/しないほうがいいのかを伝える
2次予防：早期診断、隔離、治療
〈隔 離〉他者に感染が広がらないよう、 他の人との接触を避けられる状況にする 〈逆隔離〉感染して発症のリスクの高い人を 安全な状況にする

表2 感染のパターン

接触	疥癬、腸管出血性大腸菌、結膜炎、 ノロウイルス、アデノウイルス、B型肝炎、 HIV、耐性菌 など
飛沫	インフルエンザ、溶連菌、マイコプラズマ、 風疹、ムンプス
空気	麻疹、水痘、結核 ☆嘔吐物の乾燥でのノロウイルス



▶▶109◀◀

下方産業医事務所

下方 征氏

1 あなたの産業医歴は?

私は名古屋生まれの名古屋
育ちで、地元の名古屋市立大
学医学部に入りました。
大学1年時に山小屋のオー
ナーからの依頼で、長野県北
アルプスの蝶ヶ岳に山岳診療
所が開業されました。私は登
山の経験がなかったのですが、
親友に誘われ、医師や
看護師、教職員、学生などが
なるボランティア診療班に
参加することになりました。
初年度は自身が高山病にな
るという失態を演じました
が、毎年参加するうちに登山
にのめり込んでいきまし
た。活動は毎夏夏の40日ほど
ですが、医師による実際の診療
を間近で見るのができ、ま
たさまざまなバックグラウン
ドを持つ医師と山小屋で語
り合えたことは、とてもよい経
験でした。



法を担当しました。
専門外来で感じたのは、大
学の診療は責任重くやり
がいのある仕事ですが、その
に類かた私にとって、非常
に幸運なことでした。

2 あなたのやりたいこと、 今取り組んでいることは?

古河電気工業の統括産業医
である加部勇先生にお声がけ
いただき、同グループの産業
医になったことが、産業医とし
ての最初の仕事です。
同社は産業衛生に関する取
り組みがしっかり整備されて
おり、労災防止をはじめとす
る安全衛生の実践がはじめて学
ぶことができます。
また、自分に足りていないか
さをメンタルヘルスの分野に
さまさまな企業を担当させて

いたとき、この5年
間で知識と経験の幅を
広げ、昨年は労働衛生
コンサルタントの資格
を取ることができまし
た。
現在、大企業から中
小企業まで10社ほどの
産業医をしています。
複数の産業医でチーム
として関わっているの
で、多くの企業をみる
ことができます。複数の企業
を経験することは、産業医と
しての自らの知識とバランス
感覚を磨く上で大事なことだ
と感じています。
大学病院時代にがん診療に
携わっていたこともあり、今
一番力を入れているのは企業
におけるがん対策です。
がん対策の一つはがん検診
の受診率向上ですが、もう一
つ大切な対策は、がんを現
社員に就労支援です。現在
担当している企業でも就労支
援に関する要望は強いです。
今年は東京都のがん対策職
業医として、東京都がん対策
センターの「がん検診の
支援に関する要請」に応じ
たいと考えています。

小児健康相談室のご案内

検診で異常を指摘された子どもを対象に、
専門医によるフォローアップを行っています



前田美穂先生による『貧血電話相談室』
養護教諭・保健師・看護師からの相談をお受けします(無料)
開催日：第1水曜日 14時半～15時半
思春期は、身長・体重の増加に伴って最も鉄が必要と
される時期です。特に女子では月経や過度のダイエットに
より鉄欠乏が起こりやすくなります。しかし、血色素の値
がかなり低くなるまで自覚症状を訴えない子どもも多く、
ましてや中学生・高校生は、よほど身体の調子が悪くなら
ないと医療機関を受診しようとはしません。
いつも顔色が悪い、気がない、めまいなどを訴える子
どもたちを抱え、どうしたらよいかと悩んでいる先生方、
お気軽に電話でご相談ください。

- 学校検診で異常を指摘されたけれど、近くに専門医がない。
- 医療機関の選択に困っている。
- 軽微な異常で治療は必要ないけれど、
- 定期的な経過観察は必要。
- 「小児健康相談室」では、そうした子どもたちを対象として、
- 専門医による経過観察、生活指導を行っています。

腎臓病	心臓病	貧血
担当医 村上睦美 日本医科大学 名誉教授	浅井利夫 東京女子医科大学 名誉教授	前田美穂 日本医科大学教授
外来日 第3木曜日 午前	第1木曜日 午後	第1水曜日 午後
脊柱側弯症	肥満・コレステロール	思春期やせ症
担当医 南昌平 聖隷佐倉市民病院 名誉院長 礒辺啓二郎 元千葉大学教授	岡田知雄 神奈川県工科大学 応用バイオ科学部教授	鈴木真理 政策研究大学院大学 教授
外来日 第2月曜日 午後 第4水曜日 午後	第3水曜日 午後	第1金曜日 午後

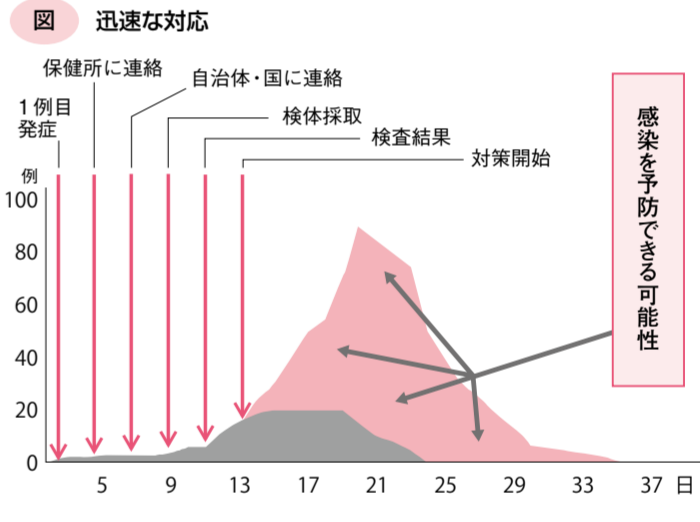
検査や診断には費用がかかります(保険診療)。
本会で学校検診を受けた方は、検査・健診時のデータを用いて診療や相談が可能です。

また堀氏は、感染症予防の
基本として1次予防と2次予
防をあげ(表1)、「これらの
基本を無視しては対策に
ならない。問題が発生して責
任を問われるような事態に
なる前に、迷わずに保健所に相談し
たい」と堀氏は強調した。
そして「しっかりと対策をし
ていなくても、必ず抜けしてしま
うと対策の破綻」は防ぐ得
る。しかし、皆さんの疲労
力によって、例えば麻疹に
ならない。問題が発生して責
任を問われるような事態に
なる前に、迷わずに保健所に相談し
たい」と堀氏は強調した。
そして「しっかりと対策をし
ていなくても、必ず抜けしてしま
うと対策の破綻」は防ぐ得
る。しかし、皆さんの疲労
力によって、例えば麻疹に
ならない。問題が発生して責
任を問われるような事態に
なる前に、迷わずに保健所に相談し
たい」と堀氏は強調した。

東京都予防医学協会年報 2018年版 第47号 が間もなく完成します (平成28年度活動報告)

● 各分野の執筆者とテーマは下記の通りです(敬称略) ●

- I 学校保健**
心臓病検診 「心臓病検診の実施成績」浅井利夫(東京女子医科大学名誉教授)
腎臓病検診 「腎臓病検診の実施成績」村上睦美(日本医科大学名誉教授)
糖尿病検診 「小児糖尿病検診の実施成績」浦上達彦(日本大学医学部教授)
脊柱側弯症検診 「脊柱側弯症検診の実施成績」南昌平(聖隷佐倉市民病院名誉院長)
小児生活習慣病予防検診 「小児生活習慣病予防検診の実施成績」村田光範(東京女子医科大学名誉教授)
貧血検査 「貧血検査の実施成績」前田美穂(日本医科大学教授)
- II 地域・職域保健**
定期健康診断・基本健康診査 「定期健康診断の実施成績」須賀万智(東京慈恵会医科大学准教授) / 「胸部X線・低線量CT撮影の実施成績」金子昌弘(本会健康支援センター長) / 「ストレスチェックの実施成績」本会職域保健部 / 「住民健診の実施成績」本会地域保健部 / 「帰国時健診における寄生虫検査の実施成績」本会検診検査部
- 特殊健康診断** 「特殊健康診断の実施成績」川井三恵(本会総合健診部長)
保健指導事業 「保健指導の実施成績」本会健康増進部
人間ドック 「人間ドックの実施成績」川井三恵(本会総合健診部長)
超音波検査 「超音波検査の実施成績」本会検診検査部
クリニックの外来診療 「保健会館クリニックの実施成績」金子昌弘(本会健康支援センター長)
III 母子保健
妊婦甲状腺機能検査 「妊婦甲状腺機能検査の実施成績」本会母子保健検査部
性感染症検査 「東京地区におけるクラミジア・トラコマチスおよび淋菌検査の実施成績」北村邦夫(日本家族計画協会理事長・家族計画研究センター所長)
新生児スクリーニング検査 「新生児の先天性代謝異常症のスクリーニング成績」本会母子保健検査部 / 「先天性甲状腺機能低下症(CH)の新生児スクリーニング実施成績」杉原茂孝(東京女子医科大学東医療センター教授) / 「先天
- 性副腎過形成の新生児マスキング実施成績」鹿島田健一(東京医科歯科大学大学院講師)
IV がん検診
胃がん検診 「胃がん検診の実施成績」本会放射線部
肺がん検診 「肺がん検診の実施成績」金子昌弘(本会健康支援センター長)
「東京から肺がんをなくす会」の検診 「『東京から肺がんをなくす会』の実施成績」金子昌弘(本会健康支援センター長)
大腸がん検診 「大腸がん検診(便潜血反応検査)の実施成績」本会検診検査部
子宮がん検診 「子宮がん検診(女性検診センター)の実施成績」木口一成(本会検査研究センター長)
東京産婦人科医会との協力による子宮がん細胞診 「子宮がん細胞診の実施成績」木口一成(本会検査研究センター長) / 「レディースクリニック(レディース外来)の実施成績」長谷川壽彦(本会常任学術顧問) / 「子宮頸がん検診における最近の話題」木口一成(本会検査研究センター長) / 「子宮がん精密検診センターの実



[年報]は本会のホームページ
http://www.yobouigaku-tokyo.or.jp
からダウンロードできます。



施成績)伊藤良彌(本会婦人検診部長)
乳がん検診 「乳がん検診の実施成績」坂住奈子(本会がん検診・診断部長)
乳房2次検診センター 「乳房2次検診センターの実施成績」坂住奈子(本会がん検診・診断部長)
V 研究・健康教育活動
学会・研究会等での活動 / 健康教育活動 / 2016年度の本会の概要

第277回ヘルスケア研修会 健康経営と女性の健康

人生100年時代を見据え 性差を考慮した取り組みを

一億総活躍社会の実現に向けて、心身共に健康に働き続けられることが、新たな健康課題となっている。働く女性が増える中、職場の健康づくりの現場では女性特有の健康問題への対応が模索されている。1月31日に東京・千代田区で開催された第277回ヘルスケア研修会(主催・健康管理コンサルタントセンター、本会)では、「健康経営と女性の健康」と題し、荒木労働衛生コンサルタント事務所所長で医師の荒木葉子氏(写真)が講演を行った。



荒木葉子氏は、はじめに「100年の人生戦略をつくるためには、健康・経済・関係性の3Kが重要だ」と強調。女性と述べた。

女性の労働力率は7割を超えており、今や働く女性の問題は女性全体の問題と言え、その上で、性別・年齢階級別の受療者数や医療費、定期健診の有見率、特定健診のデータなどを示しながら、男女で大きな差があることを指摘し、次のように語った。

「例えば特定健診は、まず腹囲、つまり肥満で層別されるが、女性はその層別の割合が少ない。そして、女性での労働に関する法政策の変遷、女性の労働状況などを解説し、「20歳から64歳までの女性に、健康経営の観点から、本会では関係者による東京都先天性代謝異常等検査連絡協議会」の設立を提案。1月29日には、東京女子医科大学教授の杉原茂孝氏を委員長とする第2回設立準備委員会が開催された(写真)。



「東京都先天性代謝異常等検査連絡協議会」 第2回 設立準備委員会が開催

新生児マススクリーニングは、先天性の代謝異常等を早期に発見し、乳幼児の健全な成長につなげることを目的とした国の事業である。本事業を実施する上で重要なことは、採血から検査結果の通知に至るスクリーニング全体の精度管理と、その維持向上を図ることだ。

また、精密検査の方法や診断後の治療方法等について相談に応じることができるとのことだ。

同委員会では今年度中に趣意書を作成し、東京都医師会、東京産婦人科医会、東京小児科医会、日本小児科学会、東京地方会及び本会の連名で東京都に提出する予定だ。

新たなる予防医学技術の向上をめざして

第52回 予防医学技術研究会議

発表とその検討を通して、技術の向上や情報交換などを目的に毎年開催されている。今年も本会をはじめ予防医学事業中央会傘下の都府県支部から、医師や検査技師、保健師、管理栄養士らが参加した。



今回は、講師の荒木先生がインフルエンザによる自宅待機期間中だったため、電話の音声会場に流す形での講演となり、ご不便をおかけしました。荒木先生には、回復間もない時期に長時間講演いただいた感謝申し上げます。

予防医学における検査・健診の技術水準の向上を目的とした第52回予防医学技術研究会議が2月22、23日の両日、長崎・長崎市で開催された。

検査の現状と課題、ミニシンポジウム「乳がん検診」「特定保健指導」や全体討論「健診リスク回避への取り組み」などが行われた。

ALCA だより 金子昌弘 本会保健会館 CTによる 検診の将来

東京から肺がんをなくす会(ALCA)が、定期的な肺がん検診に低線量CTを導入し、早期の肺がんを多数発見できるように努力することから、CT検診の研究発表の場として1994年に胸部CT検診研究会(現在の日本CT検診学会)が発足しました。

2月9、10日に開催された今年の同学会学術大会の話題は、肺がんCT検診認定機構による施設認定や、CTによる肺がん検診の有効性、肺がん以外の臓器に対する検診の可能性などでした。

お知らせ

第279回ヘルスケア研修会
5月30日(水) 14:16時
東京千代田区「星陵会館」

第279回ヘルスケア研修会が5月30日に開かれる。「ストレスチェックと働き方改革」その現状と課題をテーマに、メディアカルトラスト事業部長の佐藤典久氏が講演する。

司会は、健康管理コンサルタントセンター幹事の小杉富美子氏。

参加費2000円。定員300人(当日先着順)。

人間ドック (公財)東京都予防医学協会 体と向き合う時間をつくりませんか

本会の人間ドックは5つの特色に加え、スピーディーで正確な検査を実施します。



5つの特色

マルチスライスCTで高品質の健康チェック

受診者全員に保健相談を実施

ワンフロアでスムーズな検診を実現

管理栄養士考案のお弁当ランチをご提供

大腸内視鏡検査などアフターフォローも充実

健康的な毎日を送れるよう、精度の高い検査と心をこめたサービスで、皆様の健康づくりをサポートいたします。

ご予約電話 **0120-128-177**
携帯電話からは **03-3269-2190**

(受付時間/月~金 9:00~17:00)

東京 予防医学 検索 ← クリック
<http://www.yobouigaku-tokyo.or.jp>

予約前後に健康保健組合様へのお手続きが必要な場合がございます。健康保健組合様の指示に従い、お手続きをお済ませください。

